

米作りでもサトウキビでも表彰を受けたことのある篤農家の仲里松正さん(95)。伊平屋村田名の田園風景の中、朝夕、三輪自転車車を漕いで、長男、次男が営む畑や牛舎を回るのが日課だ。

片道1キロほど。「歩くより乗った方が楽だから」と笑う。一個所の畑を見終わると、つえを荷台の籠に投げ込んで愛車にま

仲里 松正さん

(95歳・伊平屋村)



朝夕の畑回りが日課

たがり次の畑へ向かう。「ペダルが重い。修理しようと思うけど」と笑った。

17歳の時、出稼ぎで南洋諸島トラック島でカツオ船に乗った。1940年、現地で日本軍に船ごと徴用され、日本軍の食料確保に従事した。敵機が来ると海に飛び込んで身を守るという命懸けの漁が続ぎ、船員のほとんどが爆風で耳が遠くなったという。「動かされただけで何の恩恵もなかった」と日本軍への憤りは消えていない。敗戦翌年に帰郷し、以来、農業一筋で男女7人を育て上げた。

畑の収穫を沖縄本島の孫たちに届けるのが楽しみ。「今年は12キロのスイカを送ったよ」と自慢した。来年のカジマヤーを楽しみにしている。(米倉外昭)

自慢の牛舎の脇で愛車にまたがる仲里松正さん

11月4日、伊平屋村田名